



# Perspectives



# 多くの分野にふれながら、 自由に自分の世界を描いていく



## とにかく「東大に入りたい」が 志望動機

**松本** お二人が東大を受験したい、学びたいと思った理由から聞かせてください。

**横山** 私は高1までは医学部に進学するつもりでしたが、母が買ってきた『ドラゴン桜』という漫画を読んだことがきっかけで、東大志望に変わりました。医学の道との迷いは高3まであったので、後期試験は医学部を考えていました。

**松本** 悩みながらも東大へとなったのはなぜですか？

**横山** 私の高校では東大より地元の高知大学医学部志望のほうが多くて、東大の認知度がそんなになかったんです。ドラゴン桜で東大のことを知り、だんだん東大のほうがいいなと思うようになりました。

**松本** 東大で何かを勉強したいという思いはあったのですか？

**横山** 特に何かがあったわけではなく、東大へ行きたいという気持ちしかなかったです。東大では進学選択があるので、入ってからでも考えられるというところが良かったです。

**楠本** 私は外交官になりたくて文科一類をずっと

と目指していました。でも1年間駒場で授業を受けた今では、弁護士になりたいと夢が変わってきました。

**松本** 外交官になってどんな仕事をしたいというイメージをしていましたか？

**楠本** 省庁など内側から何か変えていけるような外交官や官僚になりたいと思っていたんです。でも弁護士として、外側から変えていくほうが自分のやりたいことができるんじゃないかなと。

**松本** 外交官になるには東大じゃなくてもいいわけですよね、そこをあえて東大としたのはなぜですか？

**楠本** 東大はもともとは官僚養成学校として創設されていますし、官僚になる卒業生も多いということで東大を選びました。

## 授業にサークル、実験、資格取得と充実した毎日

**松本** 東大での学生生活について教えてください。

**楠本** 今の生活は週に7コマですが1年生のときは忙しかったです。朝学校へ行って授業を受けて、空きコマも勉強をして帰る、という感じです。サークルは大学生協の学生委員をやっていました。

**松本** それはどんな活動でしたか？

**楠本** ひと言でいうと大学生協と学生をつなげる仕事です。毎週月曜に会議をしていました。毎月冊子を作ってセール情報を載せたり。あとは食堂のメニューを考えたりしていました。

**横山** 私は1年のときは前期も後期も18コマ、2年の前期も15コマっていました。中高時代からやっていたバドミントンを大学でもやっています。2年後期の進学選択で工学部へ。物理とか半導体の勉強ができる電気電子工学科にしました。

進学選択のあとさらに4年生で研究室振分けがあって、そこでは授業数の合計で決められるので、たくさん単位をとらなくてはいけないんですね。2年の後期と3年の1年間はずっと授業と課題ばかりで大変でした。希望の研究室に進めたのですが、4年からの生活は毎日実験などでやっぱり忙しいですね。この1週間は夜の10時まで実験が続いている。

**松本** 今日はそんな貴重な時間を割いてくれたんですね。

**横山** このあともまた実験に戻ります。でも実験は楽しいです。自分の好きなことをできだし、半導体を作つてその特性を上げていく研究です。



Takenori Matsumoto  
松本 武祝

進学促進部会長  
大学院農学生命科学研究科教授



Chiaki Yokoyama  
横山 千晶

2013年理科一類入学  
工学部電気電子工学科4年  
私立土佐高等学校出身



Megu Kusumoto  
楠本 めぐ

2015年入学  
文科一類2年  
埼玉県立大宮高等学校出身



総長メッセージ

グローバル化が加速する中で、世界的な規模の諸課題が顕在化しています。これらの課題に対処するためには、多様な人々が知恵を出し合い、それを活用し、連携協力して行動をおこすこと、すなわち「多様性を活力とする協働」が必要です。東京大学では、それを主導する「知のプロフェッショナル」を育成します。

東京大学の学生には、東京大学の各分野の研究の最先端で知の興奮と喜びを体験し、それらを糧として自ら意欲をもって主体的に学び、自己を大きく成長させてほしいと考えています。

自分の可能性を思い切り伸ばしてみたいと考えている女子学生の皆さん、一人でも多く東京大学を目指してくださいことを期待します。

五神 真

## いろいろ学べるからこその大変さと面白さ

**楠本** 東大で学んでみて大変なところは語学がいっぱいあること。第2外国語でロシア語、第3外国語ではイタリア語をやっているんです。

**横山** 第3は必修ではないよね。

**松本** 語学がいっぱい大変なのになぜ第3外國語まで履修しているの？

**楠本** ロシア語は必修で、それ以外にロシア語かその他の言語を履修しなければならないので、その枠をイタリア語にしたんです。ロシア語をこれ以上どるのはきつくて、1年のときは英語がいっぱいありすぎて大学へ行くのが嫌でした。

**松本** 東大に入って嫌だったこともあったのですね。良かったことは何がありますか？

**楠本** 良かったことは、総合科目でいろんな科目が受けられること。楽しかったのはイスラムの

**松本** 最後に受験生に向けてメッセージをいただけますか

**楠本** さっき言ったことと矛盾しますが、あれもこれも授業をなんでも受けられるのがいいところです。東大では興味ある授業が学部によって受けられないということはないですね。

**横山** 入学してから進学選択までの間にやりたいことが変わる人が多いです。他の大学だと勉強しているうちに自分のやりたいことと違うなと思っても変えられないけれど、自分の興味もあるものに専攻を変えていくのがいいですね。



会場紹介



レストラン アブルボア  
向ヶ丘ファカルティハウス

東京大学の緑豊かな弥生キャンパス内にあるレストラン。“アブルボア”=動物たちの水飲み場、憩いの場をコンセプトに、プリミティブな壁画と動物モチーフのテーブルウェアに囲まれた店内で和、洋食を楽しむことができます。



自由でオープン、多様な東大生活!  
あなたなりの興味を羽ばたかせて



Chizu Tawara  
田原 千瑞

2015年入学  
文科三類2年  
富山県立高岡高等学校出身

## 前期課程 (学部1~2年)

前期課程の特徴は分野に捕らわれず、様々な授業を受けられることです。私は、学部選択が2年生の時点で行われ、時間に余裕があることに惹かれて東大に入りました。前期の授業で文学・歴史・心理から地理学などの理系分野、さらにはジェンダーやアートなど先進的な学問にも触れたことは、とても刺激になり進学選択の大きな助けになりました。

もう一つ前期課程で魅力を感じることはそのグローバルさです。第2外国語として本格的に新しい言語を学ぶことができるは本当に楽しいです。また、駒場には多くの留学生も在籍しています。私は留学生との交流イベントを行う団体に所属しており、多くの国籍の違う友達ができました。

高校とは違い、多種多様でオープンな大学生活が皆さん待っていますよ。

## 後期課程 (学部3年~)

高校生の頃の漠然とした夢が、少しづつ形になり、彩られていく

私は「数学を社会に応用する」ことに高校生の頃から漠然と憧れていきました。私の所属する計数工学科では、そのようなアイデアを具体的にどう実現できるのか、様々なアプローチ方法を学ぶことができます。例えば金融工学や、今流行りのビッグデータ解析もその一つです。複雑な現象を解析するためには数学、情報、物理等をベースとした幅広い分野の基礎をまず学ばなければならぬのが大変でしたが、最近では学んだことが有機的に繋がっていくのを実感するたびに成長を感じています。

私はまだ専門分野を決めていませんが、大学院に進学後は、社会構造の変化やコンピュータ性能の躍進に伴い進化を続ける「生きた」学問であることを忘れず、柔軟な発想のもと時代のニーズに合った研究していきたいと考えています。



Ayako Nakanishi  
中西 彩子

2013年理科一類入学  
工学部計数工学科  
システム情報工学コース4年  
私立南山高校女子部出身



## 東大から世界へ! アメリカへの留学で得た経験

Haruka Funabiki  
船引 はるか

2012年文科三類入学  
教養学部教養学科  
総合社会科学分科  
国際関係論コース4年  
私立桜蔭高校出身



私は大学3年の夏から一年間、交換留学生としてアメリカのスワースモア大学で国際関係論を学びました。高校時代から大学に入ったら長期留学をしたいと考えていたのですが、期待以上に楽しく、同時に予想以上に困難の多い一年間でした。

アメリカの授業はディスカッション中心で、初めのうちは現地の学生の議論を理解するのがやっとでしたが、英語の上手下手は気にされていないことに気がついからは積極的に自分の意見を発信できるようになっていました。日本の学生とは違った観点から国際関係を見る学生との議論を通して、より思考が深まったと思います。また寮生活では、平日も週末も一日中友人と過ごすので、帰国後も国境を越えて交流の続く友人が得られました。課外活動も充実していて、東大ではやつていなかったダンスなど、新たな環境だからこそ踏み切ることにも挑戦できました。

住み慣れた環境を離れた一年間は、学業面でも精神面でも常に成長を感じられる日々で、大学院や働く場としても海外を考えるきっかけとなりました。と同時に、同時に世界のあちこちに留学に行った同期を訪ね、知見を広げる素敵なお会いもありました!ぜひ東大の交換留学制度を利用して、日本を飛び出してみてください!

## 東大の国際性に救われた、 私の夢見る日本生活

CHAN HANG TSZ GLORIA  
陳幸梓

2015年入学  
教養学部PEAK  
国際日本研究1年  
中国香港 聖保羅男女中學 出身



私は、日本の漫画・アニメ文化が大好きだというごく単純な理由で日本に、東大に進学しました。PEAKの授業は英語で行われるので、日本語を前もって勉強していた分、ある程度大丈夫だと思い、特に深く考えずに来日しましたが、実際にこちらで生活したり勉強したりすると、日本について詳しいと思い込んでいた私の中に不安と戸惑いが生じました。

ですが、そういった負の感情は徐々に薄れていきました。それは東大の国際性と、留学生に対する思いやりのおかげでした。PEAKプログラム内には4年生まで先輩があり、違う学年でも相談や話がしやすく、精神面と生活面のサポートもしてくれました。また、東大では特に留学生と日本人学生との親睦を図るサークルがあるため、ほかのサークルも少々「かわった」秋入学の私を受け入れてくれました。私は高校からやってきた演劇を日本にいても続けられることをうれしく思っています。

それに、東大教員のナショナリティも多いので、中国人の教員が担当する授業に出れば親しみが感じられ、もちろん外国人と日本人の教員のもとでも勉強になることばかりです(笑)。

来日した当初はかなりびくびくしましたが、今ではずっと大好きだった日本で、夢のような日々を満喫しています。

## 留学情報

### INFORMATION

東京大学は世界トップレベルの教育研究拠点として国際的な学術交流を推し進め、特に在学生には国際的学習・研究の体験の推奨をし、積極的にそのような機会を提供しています。詳しい情報は、Go Global ウェブサイトで紹介しています。  
Go Global ウェブサイト: <http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/>

■ 1学期~1年間の留学

(1) 交換留学、(2) その他

■ 3ヶ月未満の留学

(1) サマープログラム(ウィンタープログラム)、(2) 海外インターンシップ・ボランティア

■ その他の海外留学等の機会

(1) 「国際研修」(主題科目)、(2) GLP-GEFL 海外プログラム、(3) 体験活動プログラム



### 三鷹国際学生宿舎

三鷹国際学生宿舎は、東京大学に通う学部生、大学院生、外国人留学生が居住する学生寮です。(大学への通学時間は1時間と若干遠いですが…、)とても落ち着いた環境にあります。

宿舎では留学生と日本人学生との交流、また三鷹市民の皆さんと宿舎生との交流が積極的に行われています。宿舎生で構成されたMSC(Mitaka dorm Student Council)・院生会を中心に、学生が主体的に様々なイベントを企画・実行しており、大学院生の研究発表や学部生の学習成果を発表する機会も設けられています。クリスマスやハロウィンのパーティーも、みんなで楽しんでいます。自律的な生活を送りながらも、他の宿舎生から日常的に刺激を受けることのできる環境ですよ!

もちろん宿舎生同士の仲も良く、普段交流のない他学部の友人も増えます。ラウンジなどでおしゃべりしたり、一緒に勉強したり、ご飯を食べたりなど、初めての一人暮らしの寂しさも紛れます(笑)。

三鷹国際学生宿舎に入寮予定の皆さん、様々なバックグラウンドを持つ宿舎生との出会いを、存分に楽しんでください!



理科一類入学  
2000年工学部化学システム工学科 卒業  
私立桜蔭高等学校 出身

Shoko Takagi(Otuka)  
高木(大塚) 祥子  
古河電気工業(株)  
ダイバーシティ推進室  
兼働き方改革  
プロジェクト担当主査



### 出会いと学びを大切に 理系も多様なキャリアを

高校時代、友人と行った五月祭展示に刺激を受け、地球環境問題を解決したいと思いました。他にも認知科学や理系人材育成等に関心があり、入学後に学部選択できる点、得意教科を伸ばす受験勉強法で楽しめそうな点から、東大受験を決意しました。入学後、文学、美術、心理学等様々な授業を受講。友人達と一緒に議論したり、著名人に取材し本の出版に関わったこと等印象に残っています。

卒業後は、省庁・自動車会社で技術者育成や研究開発等に携わり、3児の母になりました。現在は女性活躍推進やワークスタイル変革を全社的に進め、特に若い皆様が成長し続けられる創造的で活力溢れる企業作りを目指しています。新たな職場でも大学の先輩や同級生と出会い、東大のネットワークや学びに感謝しています。私のように理系のキャリアも多様、ぜひ、五月祭が駒場祭にいらしてください。

### 豊島国際学生宿舎

今、私は豊島国際学生宿舎に住んでいます。留学生の私にとって、ここは非常に安心できる住まいです。今年の3月に日本に来たばかりで、「これから東京で一人で生活をするのに大丈夫?」という疑問を持っており、自信がありませんでした。しかし嬉しいことに、大学側から住居であるこの宿舎を提供していただき、今では安心して暮らすことができています。

私はこの宿舎で、たくさんの人と友達になりました。日本人だけではなく、ほかの国の友達もたくさんできました!それに加え、宿舎には共用スペースが設けられており、異文化交流の場が提供されています。とても面白いです。例えば、一緒にチャットをする、ご飯を食べる、時には先輩と一緒に勉強もします。みなさんの優しさを日々感じています。次第にここで的生活も慣れて不安感も無くなりました。ここに住むことができて本当に良かったと思います!これからも充実した留学生活を送っていきたいです!



Ryu SeiSei  
劉青青  
2016年入学  
経済学研究科  
現代経済コース修士1年  
中国 南昌大学 出身

### 住まいの情報 INFORMATION

地方出身者や外国からの留学生等のために、本学では学生宿舎を用意しています。入居者の募集や入居資格等の詳細についてはWebサイトをご覧ください。

#### 【学部の新入生用の学生宿舎】

■ 三鷹国際学生宿舎(男子・女子)

<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/campuslife/housing/>

#### 【学部の後期課程および大学院生用の学生宿舎】

■ 豊島国際学生宿舎(男子・女子)※平成29年3月、豊島国際学生宿舎(新棟)竣工予定

■ 追分国際学生宿舎(男子・女子)

[http://www.u-tokyo.ac.jp/index/h04\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/index/h04_j.html)

### 大学入学と 新たな旅立ちの始まり

十数年にわたる女子校での生活を経て、女子学生率8パーセントの東京大学に入学した当初(1984年)は、対人関係や大学の設備など、色々な面で戸惑うことが多かったのを覚えています。しかし、それは、以後、中国経済史の研究を志し、アメリカの大学院への留学、中国での文献調査とフィールドワーク、日本の地方大学での勤務といった、文化や環境を異にする地域への新たな旅立ちの始まりでした。大学で身についた、語学や人文社会科学の基礎的な考え方といったツールや、知り合った友人たちが、日本内外に踏み出していく上で、大きな力になったのは言うまでもありません。2年前に、東京大学に教職を得て戻ってきましたが、今度は、授業やゼミなどの機会を捉えて、自分が学生の皆さんに、旅の杖になるような知識や知恵を、提供したいと考えています。



文科三類入学  
1988年 文学部東洋史学科 卒業  
私立雙葉高等学校 出身

Tomoko Shiroyama  
城山 智子  
大学院経済学研究科  
教授

ONE DAY

# 東大女子の 1日

Ririko Kousaki  
神前 梨理子

2015年入学  
文科二類2年  
私立智辯学園  
和歌山高校 出身



私は応援部チアリーダーズに所属しており、水曜日と金曜日は放課後に駒場の体育館で練習をしています。同期や先輩・後輩とも仲が良く、活動を楽しんでいます(^^)

前期教養課程は授業、サークルとキャンパスライフを満喫できる2年間。  
そんな駒場生の生活をのぞいてみましょう。



大学ではかなり自由に時間割を作ることができるので、登校時間は曜日によってばらばらです。8:30開始の1限授業の時は少し朝早いですが、時間割によっては午後からしか授業がない曜日もあります。



講義



8:30

1年生はクラスのメンバーと一緒に受ける授業がたくさんあります。国際関係論や心理学など、大学で初めて出会う学問分野の講義は人気があり、どれも興味深いものばかりです。

図書館などで

自習



12:30

お昼ご飯はたいてい駒場の食堂で友達と一緒に食べます。キャンバスにはベンチがたくさんあるので、天気が良い日は購買部でランチを買って外で食べたりもします。



15:30

部活までの空き時間には図書館などの自習スペースで勉強しています。駒場図書館は資料が豊富で、学習に使えるパソコンもあり、自習しやすい環境が整っています。



ホッケー部は、ジュニアクラブの運営やジュニアホッケー教室での指導など幅広い活動をしており、地域の子供達との交流も私の楽しみの一つです。また、長期休暇には同期と免許合宿に行ったり、先輩方と鍋パーティーをしたりと、部活の時間以外でも部員同士の交流は深く、とても充実した大学生活を送っているのはホッケー部のおかげです！

# ACTIVITIES 課外活動



## INFORMATION 女子学生が安心して東大で学ぶために

### 女子高校生のための 東京大学説明会を9月に開催

「女子高校生のための東京大学説明会」を、平成28年度は駒場キャンパスで9月18日(日)に開催予定です。卒業生による講演、教職員による入試説明、在学学生によるパネルディスカッション等の他、個別相談ブースで学生に直接話を聞くこともできます。ぜひ積極的に参加してください。



### 女子学生向けの 住まい支援

本学に入学する自宅からの通学が困難な女子学生のために、平成29年4月から、キャンパスに近く、セキュリティ・耐震性が高く、保護者が宿泊可能な安心安全なマンション等を100室程度用意します。詳細は、本学ホームページ等で平成29年1月中旬頃にご案内する予定です。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/index/h00\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/index/h00_j.html)

### 在学女子学生による母校訪問

2010年から在学女子学生が夏休み等に母校に行き東大の説明をするという事業をはじめました。2011年度は11校、2012年度は16校、2013年度は54校、2014年度は39校、2015年度は40校で実施しました。

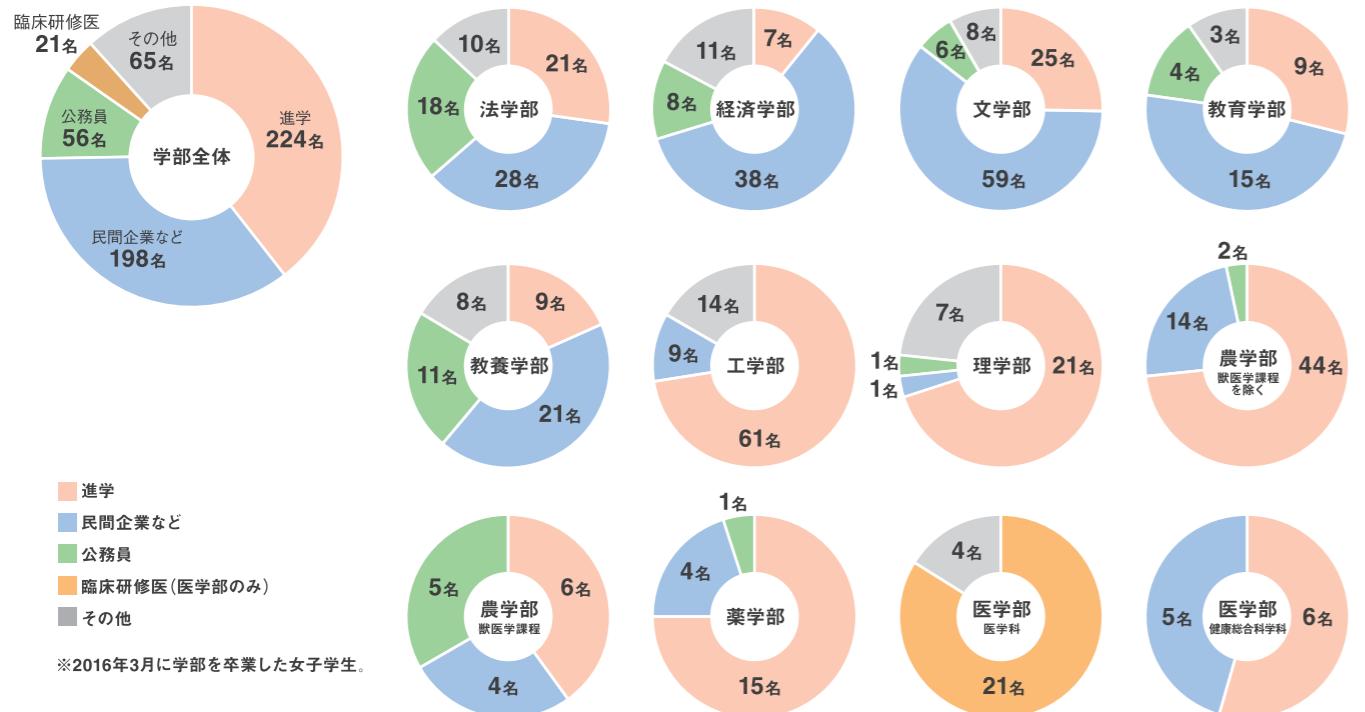


# 卒業後の進路



学部を卒業したら、その先は？

さらに学ぶ、社会に飛び出す独立する——先輩たちの進路状況をみてみましょう



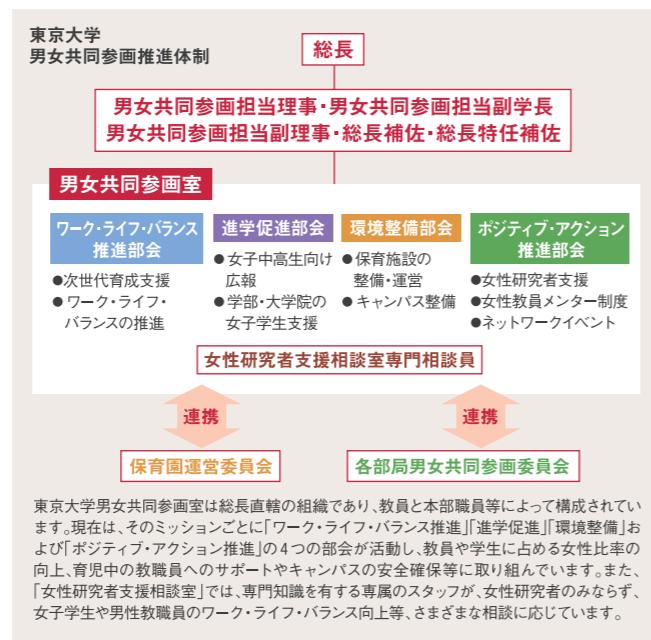
東京大学理事・副学長  
男女共同参画担当  
南風原 朝和

東京大学では、学生、教職員等すべての構成員が、その性別によらず、いきいきと活躍できるよう、2006年に男女共同参画室を設置し、翌年に策定した「東京大学男女共同参画推進計画」に沿って、さまざまな活動を実施しています。たとえば、2008年には主要キャンパス4か所に直営の保育園を開園し、教職員はもちろん学部・大学院学生のお子さんを受け入れ、教育研究活動や学業の継続を支援しています。

このようなことは、本学の使命である卓越した学術の追求とそれを担う人材の多様性を担保するためには必要不可欠なことです。

我々は、高い志を有する皆さんの挑戦を歓迎し、積極的に支援ていきたいと考えています。

## 東京大学男女共同参画室



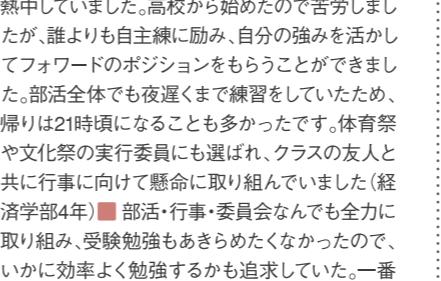
### Q 東大への志望を決めた時期とそのきっかけを教えてください。

■ 高2の冬。生物学や医学に興味があつても学部を限定するまでは至らず、東大なら進学選択制度で学部決定まで約2年間の時間があるので（薬学部4年）■ 将来国際機関を志望していく、東大の文科一類に入れば自分の可能性を狭めることなく広いまま保っていくと考えた（法学部3年）■ 高2の夏のオープンキャンパスで、たまたまお話を東大生が人間的にすごいな、と思える方で、「自分も東大に入ってこんな人たちとたくさん出会いたい」と思った（理科二類2年）■ 中学校3年生。決め手は緒方貞子さんについて書かれた本を読んで感銘を受け、国際的に活躍する人に自分もなりたいと思ったから（教養学部4年）■ 高2の終わりごろから模試の判定をみて漠然と考え、高3に入って、できるだけ広い視野をもちたいと思い決意しました（教育学部3年）



### Q 東大入学後に苦労したことや困ったことを教えてください。

■ 一人暮らしのため、ほっておくと自分で自分の睡眠欲を管理できず授業に行かなくなってしまうので、その自己管理が大変でした（理科二類2年）■ 勉強ができる人が多いので試験でいい成績を取るのは高校よりは大変なこと、間に悩み苦しむ機会が増えること、自分の中で消化するだけでなくいかに人に伝えられるかも大事になること、自分がさぼろうと思えばいくらでもさぼってしまうこと（経済学部4年）■ 難しきれいなこともしばしば（医学部3年）■ 進学選択のために点数を気にしないといけないのが辛い。この制度が魅力的なのは言うまでもありませんが（理科二類1年）



### Q どんな高校時代でしたか？熱中していたことは？

■ ソフトテニス部では1年間部長を務め、当時少ない部員の中でのりで頑張った（理科二類1年）■ 高校時代は、女子サッカー部での部活動に熱中していました。高校から始めたので苦労しましたが、誰よりも自身に励み、自分の強みを活かしてフォワードのポジションをもらうことができました。部活全体会でも夜遅くまで練習をしていたため、帰宅は21時頃になることも多かったです。体育祭や文化祭の実行委員にも選ばれ、クラスの友人と共に行事に向けて懸念に取り組んでいました（経済学部4年）■ 部活・行事・委員会なんでも全力に取り組み、受験勉強もあきらめなかつたので、いかに効率よく勉強するかも追求していました。一番熱中したのは高3の9月にある文化祭の演劇（医学部3年）■ 中高6年間寮生活をしており、規則や上下関係がとても厳しい中で高校時代を過ごした。掃除、洗濯はもちろん自分でしなければならない他、朝礼や夕礼など毎日の決められた日課と時間の中で勉強をするのが大変だった（教養学部4年）■ 1年生から東大に行きたいと思っていたので、時間を取って勉強するようにしていました。一番力を注いだのは勉強だと思います（文科一類2年）



### Q 現在の住環境を教えてください。

■ マンション。駒場・本郷までそれぞれ30分です（工学部4年）■ 2年までは学生寮に住んでいて通学時間は電車で30分、3年からはアパートに一人暮らしで通学時間は自転車で15分です（教育学部3年）■ 自宅に住んでいます。通学時間は約40分です（理科二類1年）



## 女子高校生のギモンにお答えします！

### Q 部活・サークル・アルバイトなどについて教えてください。

■ 1,2年時はテニスサークル週2、英語ディベート週1程度。3年以降はテニス週1くらい（医学部3年）■ アメフト部のマネージャーとして、1年間のうち2月から12月まで、ほぼ週6で活動しています（理科二類2年）■ 個別指導の塾講師のパートを始めました。普段は週2日、講習期間中は隔日くらいでパートが入ります（文科一類2年）■ 授業がない日は1日パートを入れている時もある。コンテンポラリーダンスのサークルとコスプレしてパフォーマンスする団体とジャーナリズム系のサークルに入っていますが、学園祭前に主に活動しています（教育学部3年）■ 1年生の時にホテルのウェイター、2年生の時に家庭教師（工学部4年）



### Q 卒業後の進路について教えてください。

■ 漠然と地元の大学の教員になりたいと思っているが、狹き門なのでなんとも。とりあえず修士に進んで臨床心理士をとる（教育学部3年）■ 食べることが好きで、高校の時から食品の研究に興味があり、現在も食品の研究をしているので、食品企業での研究職につきたいと考えています（農学系修士1年）■ 理系は大学でやめ、一旦ファイナンス業界で就職し、社会を知った上で、文系の大学院に戻り、国連などの公的機関に行けばたらと思っています（工学部4年）■ 就職活動時は外資系の会社や金融機関など様々な民間企業を見ており、最終的に外資系コンサルティング会社から内定をいただいているが、日々目指していた国家公務員への思いが強くなり迷っています（経済学部4年）

[企画・編集] 東京大学男女共同参画室進学促進部会

松本武祝（農学生命科学研究科教授） 矢口祐人（総合文化研究科教授） 鹤田圭紀子（工学系研究科准教授） 高木寛通（数理科学研究科准教授） 杉森玲子（史料編纂所准教授） 岡田由紀（分子細胞生物学研究所准教授）

[発行] 東京大学入試事務室

[製作協力・印刷] 株式会社 楽ブランディング

2016年7月7日発行 「Perspectives」に掲載されたすべての画像、文章の無断転用・転載を禁じます。

科類・学年等は取材時のものです。